
向日葵、そして太陽。

優姫香。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

向日葵、そして太陽。

【Nコード】

N3513I

【作者名】

優姫香。

【あらすじ】

そろそろ日も短くなり、9月の19時と言えばもう暗い。

風は爽やかで景色もいい。

しかしそれとは裏腹に、その光景は爽やかといえないであろう。

そんな夕暮れ時の出会いから、

由香は決意し、爽に告白をする

第1章 夕暮れ、そして出会い

夕焼け空を追い出して、そろそろ夜の帳が空を覆っていきこうかという時刻。

日もそろそろ短くなり始めた。

爽やかな風が吹く中。

しかしそこで展開されている光景は爽やかとは言えないだろう。

『ね、ね？ちよつとだけだから！ね？』

『遊ぼおーよお』

だぶん高校生と思われる2人組が、同じく高校生くらいの少女に話しかけていた。

2人は、目がちかちかするような茶髪で、制服を着崩している。

後ろにはバイクが1台、ぽつんと置いてあった。

『……………』

少女は2人を前に沈黙していた。

別に怯えてるわけではなさそうだ。

少女は、小柄でショートよりは少し長めだと思える髪。

一言で言つと、可愛い。

『……………悪いけど、断る。』

愛想なく答えると、少女は2人の横を通り抜けようとする。
が、素早く進路をふさぐ。

『そおーんなこと言わないでさ、俺たちと遊ぼう？』

俺さ、前から君の事いいなあーって思ってたんだよね』

『……………悪いが私は、君たちみたいな馬鹿には興味がない。』

『んっだとツ…！』

腹が立った2人だが、それでも笑顔は絶やさない。

どうやら根性だけはいらしい。

『俺さ、おいしいお店しってただぜ？一緒にいこーよ』

そう言いながら2人組の片割れが、少女の手を掴む。

掴まれた少女の目つきががらつと変わる。

睨む、と言うよりそれ以上っていうかなんというか…。

- - - - -ウウウウウウウウ - - -。

パトカーのサイレン音が鳴り響く。

音は段々と近くなっている。

『警察？ちよ、やばくね？逃げるぞ！』

『なんで逃げるの？俺ら、声かけてるだけじゃん。』

『ばつ／＼お前このバイク…。』

『ああ！逃げるぞ！じゃあまた今度ね！』

と、思い当たる事があったのか少年たちは顔色を変えて走り去っていった。

本人的にはカッコいい爽やかだと思っているであろう笑顔も、
ぎこちなかった。

2人を追いかけてる警察のパトカーが姿を現さない、ということを知らない。

残された少女は、わずかに微笑み、眼下にある河を見下ろした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3513i/>

向日葵、そして太陽。

2011年1月7日02時12分発行